

箕面市消防本部の管内概要

箕面市及び豊能町の地勢

箕面市は、大阪府の北西部に位置し、東は茨木市、西は池田市及び川西市、南は吹田市及び豊中市、北は豊能町に隣接しており、昭和 31 年 12 月 1 日に市制を施行し、大阪府内 24 番目の市として誕生しました。

現在、人口は約 13 万 9 千人、市域は、東西 7.1 k m、南北 11.7 k m、面積 47.90 k m²で、北部は、市域の約 3 分の 2 を占める北摂山系箕面連山からなり、明治の森箕面国定公園を擁し、自然に恵まれた住宅都市として発展しています。

箕面市は、名滝「箕面大滝」とともに東海自然歩道の起点として知られ、大都市の近郊にありながら豊かな自然が残り、桜や紅葉の季節には近郊から大勢の観光客が訪れます。南部には、一大流通センターである大阪船場繊維卸商団地が、中部には、平成 15 年に大型商業施設が整備された箕面新都心「かやの中央」が、東部には、平成 16 年に国際文化公園都市「彩都」が、北部には、平成 19 年に大阪府内で最長となる箕面グリーンロードトンネル(坑道距離 5.6 k m)が開通し、水と緑の健康都市「箕面森町」がまちびらきしました。更に北大阪急行線を箕面新都心「かやの中央」まで延伸する事業が、2023 年度の開業に向けて着々と進められ、21 世紀にふさわしい新しい街へと発展しています。

また、平成 28 年 4 月から消防事務を受託している豊能町は、大阪府北部の北摂山地の地域に位置し、町域の約 3 分の 2 が山林を占めています。北は能勢町と京都府亀岡市、東は茨木市、南は箕面市、そして西は兵庫県川西市に隣接しており、大阪、京都、兵庫という三つの生活圏が交差しています。現在の人口は約 1 万 9 千人、面積は 34.34 k m²となっています。能勢電鉄や阪急バスなど鉄道網、道路網が充実しており、大阪都心へのアクセス環境が良く、大阪市内から 1 時間以内という地域に位置しながらも豊かな田園風景が広がっている街です。

箕面市の変遷

明治 22 年 4 月 1 日の町村制施行によりつくられた箕面村、萱野村、止々呂美村の 3 村が箕面市の始まりで、その後、昭和 23 年 1 月 1 日に町制施行により箕面村が箕面町となり、同年 8 月 1 日に萱野村、止々呂美村と合併、昭和 31 年 12 月 1 日には三島郡豊川村と合併して市制を施行しました。そして、昭和 32 年 4 月 1 日に茨木市の川合地区を編入し現在のかたちになりました。

豊能町の変遷

明治 22 年、余野、野間口、川尻、木代、切畑が合併して東能勢村に、吉川が吉川村になったのが、豊能町の始まりで、その後、茨木市高山を編入し、東能勢村と吉川村が合併して新しい東能勢村になりました。そして、昭和 33 年には京都府亀岡市の牧、寺田地区を編入した後、宅地開発に伴って人口が急増し、昭和 52 年に豊能町が発足しました。